

【高温対策特集】

今年の夏も昨年同様に気温が高く経過することが予想されています。出穂期以降、高温で経過すると昨年同様、玄米品質の低下（白未熟粒の発生）が心配されます。適切な肥培管理により玄米品質の維持向上に努めましょう。

表 東北地方 3か月予報(7月～9月)(2024年6月25日仙台管区气象台発表)

7月～9月	気温	平均気温は、高い確率50%です。
7月	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
8月	天候	東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
9月	天候	東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平年並または高い確率ともに40%です。

1 水管理

生育ステージに応じた適切な水管理を心がけてください。

(1) 中干し後

間断かんがいを基本として、出穂7日前の穂ばらみ期の水分供給は、開花受精に大きく影響することから、出穂期前後は湛水管理とします。

(2) 開花期～登熟期間

【基本】開花後は根の活力維持を目的に間断かんがいを継続します。

開花後25日までは米粒の肥大化する時期であり、土壌水分が不足しないように注意し、落水は出穂後30日を目安に行います。

【高温時】出穂期後20日間の平均気温が26～27℃を超えると白未熟粒が顕著に増加します。飽水（ひたひた水）管理は地温水温を下げる効果が確認されていますので、出穂期以降、高温が予想される場合の水管理として実施します。また、用水が十分に確保される場合は間断かん水、夜間落水・昼間湛水管理を行い地温や稲体温度の上昇を抑えます。

2 追肥

高温時の出穂期追肥（実肥）により整粒歩合が向上し、白未熟粒の発生割合が低下します。基肥一発肥料を施用した場合でも、極端に葉色が褪めている場合は、出穂前に窒素成分で1kg/10a（硫安で4.5kg）を上限に施用します。

なお、実肥は食味低下の要因ともなりますので、生育に応じた実施の判断が必要です。